

上

二年
筆順
フン

3
一ト上
ジョウ・シヨウ
うえ・うわ・かみ・あじがる
ける・のぼる

成り立ち



きじゆん(もと)になるせんから「上」のほうにせんをひき、「こちらのほうですよ」といういみで、「のしるしをつけたもので、「うえ」といういみをあらわした字です。

「土(つち)」という字と、かたががよくにているので、くべつするために「上」とかくようになりました。

「うえ」ということは、「たかい」ということでもありますから、「のぼる」「あがる」といういみにもなりますし、また、「のぼす」「のぼせる」「あげる」といういみにもつかわれます。

また、「みぶんが「たかい」「すぐれている」といういみにもつかわれます。

使い方

▽川上(川の上流。川の流れてくるほう)にむかって「上」つていくと、「上空」からゆきがまいおちてきた。
▽「上流」かいきゆうの人のなのに、することをみれば「上品」ではありませんね。

熟語例

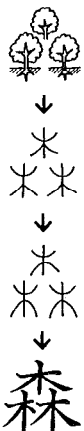
- ▽川上(川の上流。川の流れてくるほう)
- ▽上流(川上。ちいがたかく、せいかつていどのたかい。かいきゆうのいみにもつかわれます。)
- ▽上空(空の上のほう。たかい空)
- ▽上品(品がよいこと。ひとがらがすぐれていること。)
- ▽上席(上等な席。また、上位の人のすわる席。また「かいきゆうが上」といういみにもつかいます。)
- ▽上等(上の等級。等級がたかいこと。品質がすぐれているいみにもつかわれます。)
- ▽上旬(ひとつきを三つにわけて、はじめの十日かんのことをいいます。一日から十日までのことです。)
- ▽上陸(陸に上ること。ふねから陸に上ること。)
- ▽上京(「京に上ること。ちほうから東京にでてくることをいいます。)

森

二年
筆順
フン

12
一十オ木オ森
オシ
もり

成り立ち



「木(1年74)」という字をみつつかさねて、「木がたくさんしげっている「もり」をあらわした字です。

「林」がおなじしゆるいの木のあつまりをいうことがおおいのにたいして、「森」はいろいろな木のあつまりをいうことがおおいようです。

また、「林」は木のたかさがそろっているのにたいして、「森」はなみはずれてせのたかい、おおきな木もまじっていることがおおいようです。

森はずかで、おごそかなきぶんになりますので、「しずか」「おごそか」といういみにもつかわれることがあります。

使い方

▽やしらの「森」は「森閑」としずまりかえっていて「森厳」なきもちになりました。

熟語例

- ▽森林(「森や林」といういみのことばです。木がむらがつてはえているところ)
- ▽森閑(「森」も「閑」も「しずか」。ものおとがきこえず、ひっそりとしずまりかえっているようすをあらわすことばです。)
- ▽森厳(「厳」は「おごそか」。おごそかだからだがひきしまるようなかんじがすること。ふかい、しずかな森の中にあると、しぜんにかんじられる「おごそかなきもち」をあらわしたことばです。)
- ▽森羅(「羅」は「並んでいる」こと。森の木がびつとりと並んでいるようす)
- ▽森羅万象(「象」は「かたち」。「この世の中で、ありとあらゆるすべてのもの」といういみのことばです。「万象」が「すべてのもの」といういみで、「森羅」は「かざりのことばです。)